



一中だより

学校教育目標 自主・練磨・敬愛

目指す学校像「笑顔と活力あふれる学校」～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

「自主」

校長 岡島 一恵

梅雨明けが発表された先週18日、本校では、全校挙げての大掃除が実施されました。一中スタンダードの取組の一つ「洗心無言清掃」により、大掃除においても、1単位時間、おしゃべりをせず集中し、自ら進んで取り組む様子が見られました。

本校学校教育目標の一つ「自主」。現代社会において、子供や新社会人が、「自主性が無く、指示がないと動けない」事が課題として挙げられるようになったのは、随分前の事のように思います。これからの社会の担い手である若者や子供たちの課題である自主性を育む事は学校教育の責務でもあると思います。本校も生徒の自主性を育む事を学校教育目標に掲げている訳ですが、自主性と似ている言葉に主体性という言葉があります。現行の学習指導要領



においても「主体的な学び」が謳われ、指導法の工夫改善が求められている所です（中央教育審議会において、この主体性の評価の在り方について、次期学習指導要領に向けて議論がされているようです。）。「自主性」と「主体性」について、少し調べてみました。調べた事をまとめると次のような感じです。

○「自主性」：一度言われたり、教えてもらった事について、他人から言われる前に率先して行動する事

○「主体性」：やるべき事を自ら判断し、考えて行動する事、加えてその行動に責任までもつ事

「自主性」は教えて身に付けさせるもので、「主体性」は経験させて育てていくものと捉えることができます。と考えると、現代社会の課題は、「自主性」ではなく、「主体性」なのではないでしょうか。「自主性」を身に付けさせるところで留まる事なく、考えさせたり、経験したからこそ生まれる「主体性」を育てていく事が、我々大人の責任であると強く感じます。

本校の学校教育目標の自主には、「自ら正しく判断し、より良く行動する力」と具体的な示唆があります。この意味を深く読み解くと、本校の学校教育目標「自主」は「自主性+主体性」と捉えることができます。「自主性」を育てる事だけに捕ら



われず、「主体性」を育てるために、今後も、どんな指導方法で、どんな教育をしていくべきなのか、工夫改善していくと共に、生徒たちにも、学校教育目標の意味の深さを理解し、主体的に学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。

本日、無事一学期の終業式を迎えることができました。保護者・地域の皆様におかれましては、本校教育活動への御理解、御協力大変ありがとうございました。来学期もどうぞよろしくお願いいたします。

保護者皆様、本日、お子様が通知表を持ち帰ります。是非、お子様の成長した部分を取り上げ、認めて、褒めてあげてください。そして、来学期に向け、目標をもって臨めるよう励ましていただければと思います

本日の終業式では、子供たちに命の大切さについて考えてもらいたいと思い、以下のような話をしました。

私は、夏休みになると、必ず思い出すことがあります。それは、私の父親のことです。私の父は、もうこの世にはいません。33年前、暑い夏の日の夜、突然亡くなってしまいました。元気で一生懸命働くことが大好きな父でした。夜中に母の叫び声で、父が、とても具合が悪くなっていることがわかりました。急いで、救急車を呼び、無我夢中で人工呼吸をしました。救急車のサイレンが聞こえると、サンダルで外に飛び出し、救急車を誘導しました。私の家は、少しわかりにくい場所にあったため、随分遠くまで走って救急車を迎えに行きました。人間はこんな時、疲れなんか感じないのですね。とにかく必死でした。結局、父は救急車で病院に運ばれましたが、息を吹き返すことなく、亡くなってしまいました。私は、この時、就職して、4年目でした。反抗したり、心配をかけたりした父親に、ようやく親孝行できるようになったのに、この世からいなくなってしまうしました。私にとって、父の死は、初めて直面した人の死によるお別れでした。言いようのない悲しみを味わいました。涙が、出てきて、出てきて、止まりませんでした。人の死がこんなに悲しくて、寂しくて、辛いものだと初めて知りました。人の命は、その人のものであって、その人だけのものではない。その人を愛する人にとっても、とても大切な命なのです。1つ詩を読みます。「自分の番 命のバトン」という「相田みつを」さんの詩です。

皆さんの命は、たくさんの人から引き継がれてきた大切な命、このバトンを受け継いできた人が、一人でもいなかったら、違う人だったら、今の自分はいなかったかもしれないのです。そして、周りの人も、同じように命のバトンを受け継いだ大切な命をもっています。皆さんの命は、かけがいのないものであり、大切に

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうして教えていくと
十代前で千二十四人
二十代前では…？
なんと百万人を超すんです
過去無量の
いのちのバトンを受けついで
いまここに
自分の番を生きている
それが
あなたがいのちです
それが わたしの
いのちです

相田みつを「命のバトン」より

しなくてははいけません。自分も、そして、自分以外の人の命も同じです。心も体も絶対に傷つけたりしてはいけません。心の痛む事件がニュースになることがあります。もらった命のバトンを途中で投げ出したり、人の心や体を傷つけたり、人から取り上げたりすることはあってはいけないことです。命は、命のバトンは、自分だけのものではありません。私は、今年、父親が亡くなった年と同じ年齢になりました。父から受け継いだ命のバトンをしっかりと持って、自分の人生を生き抜きたいと思っています。



今月17日(木)に学校保健委員会が実施され、その中で生徒の発表がありました。左は、保健委員会、右は、給食委員会の発表の様子です。それぞれの委員会での取組等について、スライドを使って、わかりやすくまとめ、説明してくれました。



他自治体の盗撮の教職員事故を受け、教育委員会の指示により、校内において不審物等が無いが緊急点検を実施し、特に異常が無かった事について御報告いたします。本校においては毎月安全点検を全教職員で実施しております。生徒にとって学校が安心・安全な場所であるよう、今後も広い視点で点検を行うとともに、研修等を実施し、教職員事故を防止して参ります。